

「第 26 回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和 7 年 7 月 7 日（月）10:00～11:50

本庁舎 6 階 第 2 委員会室

1 出席者

1	岡 浩一郎（学識経験者）	12	鈴木 史博（生涯学習スポーツ課長）
2	神田 隆弘（区スポーツ協会）	13	勝山 雄太（新宿未来創造財団等担当課長）
3	橋本 純（区スポーツ推進委員協議会）	14	渡辺 隆介（障害者福祉課長）
4	金子 和子（区レクリエーション協会）	15	栗野 圭一（地域包括ケア推進課）
5	田中 稔（区町会連合会）	16	鈴木 明彦（子ども家庭課長）
6	村上 光一（区高齢者クラブ連合会）	17	袴田 雅夫（健康政策課長）
7	桜井 久美子（区青少年育成委員会）	18	女川 洋一（みどり公園課長）
8	池田 孝二郎（区小学校 PTA 連合会）	19	徳永 創（教育調整課長）
9	井元 毅（公募委員）		
10	西村 貴司（公募委員）		
11	新谷 太郎（スポーツ関連事業者）		

欠席者 4 名

藤原 千里（区障害者団体連絡協議会）

平田 知子（区中学校 PTA 協議会）

加賀美 秋彦（新宿未来創造財団事務局長）

広瀬 岳平（地域包括ケア推進課長）※代理出席あり

机上配付資料

資料 1 スポーツ環境会議委員名簿

資料 2 新宿区スポーツ環境整備方針について

資料 2-2 新宿区スポーツ環境整備方針 基本施策の変更内容

資料 3 新宿区におけるパラスポーツの振興と理解促進に向けた取組

資料 3-2 新宿ゆにスポ！（実績報告資料）

資料 4 新宿区民のスポーツ実施率向上への取組

チラシ 新宿ゆにスポ！（生涯学習スポーツ課）

チラシ 第 3 回車いすハンドボール Knocku カップ（生涯学習スポーツ課）

チラシ 走れ！跳べ！届け！世界陸上・デフリンピックをみんなで体感しよう！
（生涯学習スポーツ課）

チラシ バスケットボール教室（生涯学習スポーツ課）

チラシ 体操教室（生涯学習スポーツ課）

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

(1) 開会

(2) 生涯学習スポーツ課長あいさつ

(3) 新宿区におけるスポーツ環境について

・生涯学習スポーツ課 資料説明 資料2・3

(4) 新宿区民のスポーツ実施率の向上への取組について

・生涯学習スポーツ課 資料説明 資料4

<議題>

新宿区民のスポーツ参加の向上に向けて、これまでスポーツができていない人に対して、どのような環境や条件の工夫があれば、スポーツがしやすくなるのか。

子ども、高齢者、障害者、働く世代、子育て世代ごとに検討する。

【岡委員】～検討にあたっての視点について～

新宿区のスポーツ実施率 58.5%という数値を、11%高めなければいけないということ。これが、我々が果たさなければいけないミッションだと考えるのがいいと思います。それに関して考えると、スポーツを辞めていく人もいますが、今の人を維持しながら新規でスポーツをやる人を 10%プラスする必要がある、非常にハードルが高いと思います。

例えば、新宿区が「健康麻雀」をスポーツと捉えようとするれば、様々なものをスポーツに含めていくことになります。そうすれば、スポーツの定義が広がり、数値的には 10%ほど増加する可能性があります。ただ、それがいいかどうかは検討の余地があると思います。委員の皆さんは、それぞれの立場で関わられていると思いますので、どこまでをスポーツと捉えて検討するか、それぞれの意見を聞いていくことが大切だと思います。

また、情報という面では、素晴らしい取り組みをしているのに全然知られてないということが非常に多いです。私は情報環境という考え方を常にしていますが、それをどのように整備していくのかということは、とても大事だと思っています。区民の方に適切に伝える手段までパッケージで考えて、こういう伝え方、広め方をすれば、もう少し来てもらえるんじゃないか、みたいなところも皆さん方の思っているリソースの中で、少しお考えいただけたらと思っています。

オンラインも良いと思っています。ただ、知らない人が一生懸命教えても、みんながそこに反応するとは限らないと思います。誰がやってくれるのか、誰が教えてくれるのかということは、とても大事だ

と思いますし、いろいろな視点を考えていく上で大切だと思っています。

ライフコースごと検討する際に、対象ごとにアプローチの方法は異なるため、委員の皆さんがそれぞれに関わっているところの中で考えていただければと思います。新規の取り組みで 10%増やす方法と、既存の取り組みで 10%増やす方法と色々なアプローチがあり、今日結論を出す必要はないと思います。既存のことに縛られないことが重要で、新しいアイデアに対してリソースがあるのかどうか、あるいは実現可能性があるのかどうかを、皆でディスカッションしていくことができたらいんじゃないかなと思っています。これまで抱えていた課題を挙げていき、それに対する打開策を考えるのもいいと思います。新宿らしいものをもっと提案できるような機会になればいいと思います。

<意見交換>

①子どもに対する取り組みについて

【池田委員】

小学生に関しては、体育の授業などを通じて、週 1 回以上の運動に関しては、障害のある児童等を除き、100%に近い実施率かと思っています。その他の取り組みとして、各校で新宿区スポーツ推進委員協議会や新宿未来創造財団（レガス）の皆さん方、そして PTA が子どもたちのスポーツをする機会を作り出しております。例えば、週末の体育館や校庭を使って、講師の方を招き、バスケや卓球、ポッチャやサッカー教室などを実施しております。昨年度から花園小学校では、放課後に走り方教室も有料で実施しており、そこではクリアソン新宿所属の元五輪リレー選手指導のもと、子どもたちに正しく速く走るコツを実践的に教えてくださっています。そういう意味で、新宿区内の子どもたちに関しては、恵まれた環境が整っているのかと思います。

ただ、広さが十分でないという問題点はあります。例えば、四谷小学校は、現在増築工事中で資材等が校庭に置かれており、ただでさえ狭いグラウンドが更に狭くなっており、そこに 600 人を超える児童が学年ごと日替わりで中休みや昼休みも交代でしか使えないような状態になっております。どの小学校でも多かれ少なかれ似たような状況ですので、児童が思いっきりスポーツを出来る場所が整備されると良いと思っております。

【桜井委員】

情報を周知するのが本当に大変だと感じています。様々なイベントが企画されており、区をはじめ、多くのチラシなども届きますが、情報が非常に多いので、自分に必要なものかどうかを見極めるのが大切だと思います。箆笥地区の育成会では、11 月 3 日に牛込三中で「地区レク」という運動会を開催します。周知を地域の情報誌に掲載しており、地域の方はそれを見ていただいて、400、500 人集まります。子育て世代の方から中学生、高校生、大人まで大勢参加していただけるので、その情報を知らせるのは、地域の情報誌が一番重要かなと思います。

また、地域スポーツ文化協議会では、箆笥地区では年に 6 回ほど活動していますが、その中で、障害者の方とポッチャをやるような企画もしています。ただ、周知の仕方があまり良くないせいか、人が集まらないこともあります。いい企画をしてもそれを皆さんにお知らせする方法が、一番の課題かなと思います。

②高齢者に対する取り組みについて

【村上委員】

高齢者クラブは何千人もの会員を抱えているのですが、高齢者は地域性が狭く、そこへバスに乗ったり電車に乗って行くことを嫌がるのが一番の問題。年に2回グラウンドゴルフ、年に1回輪投げをやっていますが、集まる人間は200人以上で、非常に意欲はあるのですが、現実問題として、参加できる環境のあるところの方が参加しており、環境のないところはやりたいけどやれない、行きたいけどそこまで行けないのが現状です。また、各クラブに会長がいますが、その会長がスポーツが好きかどうかに関わってきます。皆さん元気で、意欲はあるのですが、移動などの環境が整わないから難しい状況となっています。

ボッチャの講習会をやる時は、金子さんに来ていただき、コースを作ってもらい、審判もしていただきますが、自分たちでやろうとしても、審判ができないし、ボッチャの備品が高くて用意できない。だから新宿区の方でボッチャを広めたければ、高齢者クラブに対して支援をするといった形があれば広がっていくんじゃないかと思う。ただ審判が必要なので、各クラブの精鋭を集めて審判の講習会をやって、審判ができるようにしないと、そんなに広がらないのではないかと思います。ボッチャをやりたいと思っているが、環境を整えることが課題となっています。

【田中委員】

町会も高齢化が進んでおり、高齢者クラブと同じ悩みを持っています。地域センターでも1kmも離れていると行かないという方もいます。区からの説明で、訪問して行う事業はどうかというお話がありましたが、それができれば、高齢者や子どもから働く世代の皆さんに、スポーツの楽しさを知ってもらい、そのなかで町会のコミュニティづくりにもつながると思います。出張スポーツのようなことができればいいと思います。

③障害者に対する取り組みについて

【井元委員】

私も障害者と言えるまでではないんですけど、難病を持っています。一般的に簡単に始められる運動は、ランニングとかウォーキングだと思いますが、私は歩くことが難しいです。そのため、代わりに自転車を毎日乗るようにして、なるべくバスや電車を利用しないようにしています。それが1つの運動になっていて、病気の症状も出にくくなっています。スポーツも団体でやるものではなくても、先ほどのアンケートでも、個人で運動をされている方が多かったですけど、個人でできる運動もあります。それぞれにとって簡単にできる運動から始めて、スポーツにも徐々に取り組んでいくのがいいと思います。

また、スポーツ環境調査の結果で、施設利用に関する項目で、施設のサービスや設備について求める重要度に対して、その満足度が下回っている結果となっています。これについては問題だと思っており、満足度を100%に上げるような取り組みを、考えていくべきだと思っています。

【橋本委員】

障害者スポーツは、安心して参加できる環境が整っていることが大切だと思います。初めて行く場所では、特に、障害のある方やその家族、サポートする方は、まず安心して活動できる場所なのかどうか

を考えていると思います。どのようなサポート体制があるか等、そういった利用者目線での環境整備と情報発信が、新宿区内で増えていくことが望ましいと考えています。例えば、車いすを利用する方は、車いすを乗せるため、車両自体も大きいので、駐車場スペースが狭いと止められないなどの事情もあると思いますので、参加した人にもアンケートを取っていただいて、情報を集めた方が対策しやすいのかなと思います。

【新谷委員】

施設に関してのご意見がありました。新宿スポーツセンターでは、障害者スポーツの普及と施設の利用改善ということで、今年の3月に車いすの方と視覚障害の方に来ていただいて、モニタリング調査をいたしました。施設の設備に関しては、地下の駐車場が狭く、車いすの方にとって非常に不便だという意見をいただきましたが、それ以外の面では概ね問題ないというご意見でした。残念だったのは、このような良い施設があるのを今まで知らなかったということでした。やはり施設を周知をするのも重要だと感じております。

先ほどボッチャの話が出ましたが、新宿スポーツセンターでは、昨年12月末から、ボッチャコーナーを設置しております。月に大体1,000人ぐらいの方が利用しています。ボッチャは、障害者の方に限らず、高齢者の方とお孫さん世代と一緒にできるスポーツであると感じました。

【新宿未来創造財団等担当課長】

施設に関して、財団の方では、コズミックスポーツセンターや大久保スポーツプラザ、公園施設などいくつかの施設を管理させていただいております。障害者の方からのご意見を聞いて、直近ではトイレのバリアフリー化などを毎年の取り組みとして行っております。また、身近な取り組みとしては、車いすの方も利用できるよう、高さの低い給水器を新しく導入しました。目立たない取り組みではありますが、そういったところから、随時施設の改善をさせていただいております。また、障害者スポーツに関する事業としても、水泳やインクルーシブスポーツ、卓球、ボッチャなどにも組んでおります。

【西村委員】

私も障害を持っています。以前、資格取得のための学校の帰りに体力をつけるためにスポーツセンターなどの施設を比較したことがありましたが、新宿区のスポーツセンターはトレーニングルームやプールなどが有料だと聞きました。文京区や千駄ヶ谷のスポーツ施設は、障害者手帳を持参すれば無料で利用ができました。障害のある人は、収入がなかったり、様々な事情がある方もいるので、そういったサービスが大事だと思いました。

【新谷委員】

新宿区では、現在、新宿区在住の方に関しては、障害者手帳をご持参いただいた方は無料でご利用いただけるようになっています。

【新宿未来創造財団等担当課長】

財団でも、令和4年度から、団体利用でも全員が障害者である場合には無料としており、個人利用で

も区民の方は無料としています。区民以外の方は 200 円となりますが、一般の方より安く設定し、利用しやすくなるよう、サービスを拡充しております。

④働く世代に対する取り組みについて

【神田委員】

サッカー協会としても、人を集めるということはいつも考えています。クリアソン新宿でも包括連携協定を締結させていただいていることから、様々なイベントに参加しています。それにより選手たちに親近感を持っていただき、クリアソン新宿は年に 1、2 回国立競技場で試合をするが、あの選手が出るから観戦に行こうと来ていただく。それだけでも運動になると思います。働く世代、子育て世代へのスポーツということでは、未就学児や小学生低学年のレベルであれば、親御さんも一緒にできるので、イベントの際には親子で参加していただくことも進めています。スポーツ協会でも、多種多様な競技が加盟しており、スポーツの幅が広がっている。子育て世代もですが、イベントにいけばスポーツもできるし、子どもの相手してもらえという環境をつくりつつ、主催者側は怪我や事故にも気を付けつつ、進めていきたいと思っています。

【橋本委員】

働く世代は時間が限られているなかで、スポーツをやりたいと思っているのか、ということもあるかなと思いました。自分自身もスポーツをやりたいと思うけど、面倒くさいと思うってしまうこともあります。そのなかで、どうすればスポーツをやっていると言い切れるのか、スポーツの定義が自分ではできない。工作中でも階段の上り下りをしているから、これもスポーツをしていることになるのか、なるなら認定してほしいと思うってしまう。どの程度の体への負荷があれば、スポーツと言えるのか、どれをスポーツと呼んでもらえるのか、とちょっと考えてしまいました。皆さんの意見をお聞きしたいと思います。

【金子委員】

自信をもってスポーツだと思ってもらえるように、情報提供をしていくのもいいかもしれませんね。

【岡委員】

私は働く世代、全国約 2500 人に調査しています。その結果では、例えば運動の定義を、厚生労働省は、1 日 30 分を週 2 回行うことを運動としています。その定義だと、「興味ありません」と答えた人が 36%、「興味はあるけど、やってません」と答えた人は 26%です。この定義で考えると、3 分の 2 が実施する動機が低い。また、いわゆる競技スポーツを週 1 回行うことについては、興味がないと答えた人が 64%、興味はあるけどやっていないという人も 15%です。つまりその定義で考えると、8 割近くが動機が低い。一方で、ウォーキングや筋トレ、日常の身体活動、階段の昇降などになってくると、皆さんの捉え方次第で、変わってくるものと思います。なので、私も最初に、皆さんはスポーツの定義をどうするか、新宿区ではどのようなことを皆で広めていきたいのか、健康麻雀はスポーツなのかなど、聞いてみたと思います。

私は、健康麻雀がスポーツかどうかは別として、やはり麻雀が大好きな人もいて、体育系も文化系も

いる、その中で麻雀をしに、外に出て人と会いに行くということは良いと思っています。ただ、ずっと座って麻雀をしているのはいけないと思います。調査では、運動スポーツについて、その人のイメージで答えるので、先ほどご意見が出ていたとおり、スポーツ情報の環境整備が重要だと思います。新宿区としてこんな運動をやっていきましょう、という提案の普及方法については、そこに多くの資源を投下すべきだと私は思います。これには先ほど言ったように、良い取組みをやっているものの、広まっていない、伝わっていないということにも繋がると思います。この10年の間で、情報が届くようで届かない、でもツールが増えているからこそ、届きやすくなっています。その辺りをよく我々は考えて、しっかりと、区民の方に情報を届けるということをやったりやるべきだと思います。私はそこに投資をしていくべきだと思います。

⑤子育て世代に対する取組みについて

【池田委員】

今の話を聞いていて、e スポーツもスポーツという名前がついていますが、ほぼ座りっぱなしです。しかし反射神経が必要なので、誰もができるものでもなく、才能や瞬発力や高度な技術が必要とされるものです。ただ、スポーツ実施率を69パーセントまで引き上げるとして、これをスポーツとして加えるべきかは、私は違うとも思っており、むしろ外に出ていくことが非常に重要で、さきほど岡先生がおっしゃったように、そういう場所に移動するだけでも十分に運動になると思うので、そういう出かける機会を自然に作るのが大事だと思います。ただし、興味があるものはそれぞれ違うので、これだったら行ってみようと思えるようなものがあればいいのかなと思います。

【岡委員】

e スポーツも、昨年までのこの会議の中では、取り扱われてきたことですが、最近では、体を動かすスポーツのゲームも、どんどん出てきていますので、それは我々でどうこうできるわけではないかもしれませんが、そういう産業になっていますので、企業と連携しながら、そういう研究している人たちが、しっかり働きかけて、体を動かす方に少し持っていってもらえるような取組みは必要なんじゃないかなと思っています。

<学識経験者からの意見>

【岡委員】

個人で運動するのが好きな人と、みんなでやるのが好きな人と、いろいろいると思いますが、やはり人とふれあいながらやるのは大切だと思います。犬の散歩でも構いません。これを私たちはソーシャルエクササイズと呼んでいます。研究上では、人と人、人と犬がふれあうことが、オキシトシンという幸せホルモンが出て、それが結果として非常に幸福感を生み出すと言われています。一人でやるのが好きな人にソーシャルエクササイズを勧めるのは強引ですが、運動する人を増やしていくためには、自分だけが行くのではなく、新たな人を連れてきたら、その人が得をする仕組みやインセンティブのようなものをつけていくことで、少しずつ仲間を増やしていくのもいいのではないかなと思っています。

先ほど話があった、スポーツ情報環境整備について、取り組んでいることを、必要な人に適切に伝えていくことの大切さ考えていくこと。またこれは、次回の会議での議題かなとも思いますが、新宿区に

はクリアソン新宿という良いコンテンツがあるので、区民を熱狂的クリアソン新宿ファンにすることで、スポーツ参画人口やスポーツ関係人口を広げていくことの基礎になると思います。スポーツによる街づくりというのは、プロスポーツチームが中心となって行っていますが、プロスポーツチームの人たちが、様々なスポーツを教えに来てくれたりする中で、やはり区民も熱狂的にそのチームを応援することや、見るスポーツ、支えるスポーツの大切さもスポーツ環境整備方針では目的になっています。これをもっと起爆剤にしていくことで、スポーツに興味がなかった人が、応援に行くようになるかもしれません。例えば千葉ロッテマリーンズの応援は、観客がジャンプをしていて、すごい運動量ですよ。それをスポーツと呼ぶかどうかは別として、それはプロスポーツが作り出したり、スポーツを応援する人たちが作り出している文化であると思います。そのようなものも、新宿でもこれから 10 年間で、育っていく良さがあるのではないかと思います。

また高齢者の部分で思ったのは、既存のものに入りづらい、これは常につきまとうことなんだと思います。新しいものを作るだけではなく、ずっといる人がずっと居続けるということも大切だと思います。プラス 11 パーセントをどう考えていくかという時に、新たに既存のものに入りづらいというこのカルチャーをどのように改善していくかが、これからの大きな課題だと感じています。

(5) 各委員(団体)におけるスポーツ環境や活動に関する情報提供

<外部委員からの報告>

【神田委員】

事務局からも説明がありましたが、新宿区スポーツ協会、新宿区レクリエーション協会、新宿区スポーツ推進委員協議会との合同事業として、9月13日に「わくわく！スポーツ探検 in しんじゅく」という新規事業を実施します。コズミックススポーツセンターの大体育室で、いろいろな種目を体験できる機会となっており、スポーツを継続的に、身近に感じてもらうことを目的としています。やってみたい種目があれば、できる場所などを案内できるようにします。皆さんも、もしお時間がありましたらお越しいただければと思います。

【橋本委員】

スポーツ推進委員協議会では、いまお話があった、「わくわく！スポーツ探検 in しんじゅく」の主催メンバーとして、一緒に楽しく参加できるような企画を含めて検討していきますので、是非、皆さんにも周知をしていただければと思います。また、今年で第3回目となりますが、「ポッチャ新宿小学生カップ」を8月24日に開催します。広報などでも告知させていただき、すでに10チーム程度の申し込みがあります。まだたくさんのご参加をいただきたいと思いますので、お声がけいただければと思います。引き続き、スポーツ推進委員としては地域の活動も行っていきますので、よろしくお願いいたします。

【田中委員】

町会連合会では、6月の定例会で財団の方に来ていただき、コミュニティスポーツ大会のご案内をいただきました。町会としても、非常に毎年楽しみにしています。子どもから高齢者まで、また働く世代も含めて、ポッチャ、ユニカール、輪投げなど、誰もがができるような種目になっております。この機会に、町会の活動を周知できる場にも繋がるスポーツ大会だと思っています。また12月には、中央大会

ということで、その地域を代表して出場いただきますが、他の地区の方々との交流もできる場となっています。この中心的な役割を果たしているスポーツ推進委員の皆さんにも、色々お世話になると思いますので、よろしくお願いします。

【村上委員】

高齢者クラブでは、先ほどお話ししたとおり、10月にグラウンドゴルフ、12月に輪投げと、5月に開催したものを含めて年3回、毎年続けて行っています。

【桜井委員】

青少年育成委員会では、それぞれの地域で活動は異なっておりますが、私の所属している筆筒地域では、11月3日に牛込第三中の校庭をお借りして、「地区レク」というミニ運動会のようなイベントを開催いたします。また、コミュニティスポーツでも、育成会として協力していきたいと思っております。

【井元委員】

様々なイベントが行われており、とても良いことだと思っています。最近、野球の人気も復活しておりますが、以前、元プロ野球選手を招いて野球教室を開催しているのを見ました。子どもにとっても、大人にとっても、名のある方を招いて指導を受けることは非常に役に立つと思いますので、予算的な問題もあると思いますが、そのようなイベントを開催しても良いのではないかと思います。

【西村委員】

今日初めて参加させていただき、皆さんが新宿区民のために、運動やスポーツをもっと積極的に楽しくできるように、会議してくださっていることを知り、すごく感謝いたしました。私もそういった意見を少しでも発言できるよう、考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【新谷委員】

新宿スポーツセンターでは、世界陸上とデフリンピックの気運醸成イベントとして、7月20日に、オリンピックの福島千里さんを招き、かけっこ教室と、デフリンピック陸上で使う光刺激スタート発信装置の体験会を予定しております。

【池田委員】

小P連では、保護者向けにソフトボール大会とバレーボール大会、卓球大会を毎年開催しており、そのためにそれぞれの地区で親善試合などを行っています。また、花園小学校では、Tリーグのチームである、「木下マイスター東京」の選手が来て、卓球を教えてくれたりしています。また、地元の商店会では、プロレスラーを呼んで、道路にリングを作って路上プロレスをやったりして楽しんでいます。そういう情報が上手く伝わるように、またこういう場も使いたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

【金子委員】

新宿区レクリエーション協会ですが、先ほど神田委員、橋本委員がおっしゃったように、9月13日にわくわく！スポーツ探検 in 新宿を実施します。この「探検」の意味は、自分の好きなスポーツを探していただき、そして、続けていただきたいという願いから名付けました。ご紹介するスポーツに関しては受け皿があります。体験をしてみて、続けたいと思った時に、活動ができる場所のご案内ができます。例えば、ユニカールも各地区に愛好者がいてやっているのですが、やっていない地区があるということは知られてないということなので、これを機会に、そういうことを紹介していきたいと思っています。また、障害者のスポーツで少し目新しいものもご紹介する予定であり、それを障害者センターなどで続けてやっていただけるよう、今準備しているところです。ご期待ください。

<内部委員からの報告>

【障害者福祉課長】

今年は、東京でデフリンピックが開催されることから、障害者福祉課でも聴覚障害の理解啓発に取り組んでいます。その一環で、いくつかのイベントをご案内したいと思います。聴覚障害のある選手に向けた応援は、拍手をしても届かないため、応援するためのサインエールがあります。障害者福祉センターで、そのサインエールを覚えてエールを送りましょうという内容の講座を、9月7日の日曜日に実施する予定です。時期になりましたら、新宿広報などでも周知してまいりますので、ぜひご覧いただければと思います。また、昨年度も行いましたが、社会福祉協議会に委託して、デフリンピックの陸上選手をお招きして、子ども向けにかけっこ教室をするとともに、簡単な手話やデフリンピックについての説明を行うイベントを8月6日に開催します。以上です。

【地域包括ケア推進課(高齢いきがい係長)】

新宿区では、いきいきハイキングを11月末に2日間実施する予定です。現在、金子座長をはじめ、ウォーキング協会の方々と、実地調査等含めて、どの場所でやるか検討しているところです。今後、広報新宿やホームページ等で周知したいと思います。

【生涯学習スポーツ課長】

チラシを配布させていただいていますが、改めて周知いたします。まず「新宿ゆにスポ！」ですが、昨年度から実施している事業で、主には障害のある方向けのプログラムを組んでおりますが、どなたでもご参加いただけますので、ご周知いただければと思います。また、7月26日には、車いすハンドボール体験会を実施します。一般社団法人 Knocku が開催しており、当日は試合も見学できますので、是非ご参加ください。次に、8月3日には世界陸上・デフリンピック気運醸成イベントを開催します。スポーツ体験だけではなく、手話のワークショップなども実施し、両大会について分かりやすく伝えていけるような、応援のエールが届くようなイベントにしていきたいと思っています。最後に、例年実施している吉本興業と連携をしたスポーツ教室を8月23日にバスケットボール教室、9月28日には体操教室を開催します。

<学識経験者からの意見>

【岡委員】

事務局の資料にも「Wellbeing」の説明がありましたが、やはり、実感できる幸せの中にスポーツがあること

が大事だと思っています。どこからがスポーツと言えるのかというお話があったと思いますが、その人なりの、働く人には働く人なりの、自分が意図して体を動かしているということがもっと増えていくと良いと思いますし、高齢の方や子ども、青少年にはそれぞれ異なる形態でも構わないと思います。共通しているところは体を動かすことが大事だということです。なので、健康麻雀であろうと、e スポーツであろうと、体を動かすことが伴っていないと、私はスポーツとは言えないと思っています。スポーツを行うことで、新宿区民の方々の Wellbeing が充実するということをこの会議のゴールにすべきだと私は思っています。

(6) その他

【井元委員】

先ほど、施設に関する調査について意見を言わせていただきましたが、新宿区スポーツ環境整備方針 p. 61 に区の生涯学習・スポーツ施設の記載がされていますが、区外にある施設として、ヴィレージ女神湖もあります。学校の移動教室などで使用されていますが、区民も利用でき、体育館もあります。近隣にはグラウンドもあり、屋外競技の合宿などにも利用できると思います。区内の施設以外も記載したほうが良いと思います。

(7) 閉会

今回は、1月に開催予定。詳細は別途ご連絡します。

終了